



会津医療センターから こんにちは！



【28】

薬剤部
部長 市橋 淳

『病院薬剤師と医薬分業』

私 たち病院勤務の薬剤師の仕事についてご存じでしょうか？

多くの病院と同様に、当院でも医薬分業を進めていて、院外処方箋発行率は80%を超えています。それにより、業務も外来調剤（内服薬や外用薬等を準備する業務）を中心としたものから、抗がん剤調製、入院患者さまへの服薬指導等に変わってきています。

まず、薬剤師が抗がん剤調製を行うことで、投与量、投与間隔、副作用予防措置等の状況を医師と共に再確認し、無菌的で安全な調製を目指しています。また、薬剤師は、土日休日を含めすべての抗がん剤調製に関わっており、チーム医療の一翼を担っています。

患者様一人一人に最適な抗がん剤療法を実施するために多くの種類の薬剤を扱っておりますが、昨年ノーベル賞受賞につながった免疫チェックポイント阻害剤を利用した治療などにも対応しています。

次に、入院の服薬指導では、入院時に持参されたお薬と服薬状況を確認し、正しい服用方法等の指導を行っています。新しく追加、変更、削除された薬剤について薬効・副作用、服用方法等の説明も行います。患者さまから聞き取った情報や症状から副作用を早期に発見し薬剤の調節を行うこともできます。また、多種類の薬剤を服用すると、かえて別の問題が起きるといわれているので、医師が薬剤を減らすことにも協力しています。

外来患者さまへの調剤は、特に管理が必要な薬剤が処方された患者さま、漢方薬の煎じ薬を処方された患者さまを中心に行っています。前日までに予約状況を確認し調剤に滞りがないようにできる限り準備しています。処方変更等で待ち時間が発生してしまっても、患者さまからいただくねぎらいや感謝の言葉が私たちの励みになっています。

薬剤部では、安全で正しい薬剤の使用ができるよう入院患者さまへの服薬指導を行うとともに、次々と開発される抗がん剤を使用した治療にも対応できるように若い薬剤師の育成にも力を注いでまいります。